

# 新時代到来!! 革新を起こす 夢への挑戦



令和4年12月16日、入門12年目の過去最速で、第17回「繁昌亭大賞」(〇)を受賞した落語家 桂二葉さん。令和3年には、若手落語家の登竜門といわれるNHK新人落語大賞で、審査員全員が満点を付け大賞を受賞するなど、男性中心の落語の世界で、女性初!!という快進撃をつづけています。

「女性初」や「女流落語家」といわれる時代を変えていきたい!と自分らしい落語を追求しつづける桂二葉さんに、挑戦しつづけるための秘訣、今後の抱負について聞きました。

悔しさをバネに  
満場一致で大賞受賞

約50年の歴史のあるNHK新人落語大賞を女性が初めて受賞したということで、海外のメディアにも大きく取りあげられました。受賞式で「じいじも見たか」と言ったことが、大きな話題に。

「女やから落語は無理。女は高座返し(〇)をしておけ。するときは前掛け(工)フロン(も)つげろ」と女であるということと理由に悔しい思いをたくさんしました。受賞したときは喜びよりも見返してやっただけという痛快さが勝っていました。桂二葉さんはその言葉の背景について話します。

「弟が泣いている時、『男のくせに泣いている』と私が言つと、男でも泣くし、女でも泣くと母が教えてくれました。桂二葉さんの中にその言葉がずっと

## 高座返し

前座さんの仕事のひとつ。前の演者が終わる次の演者が上がる前に出て座がとんをひっくり返し、羽織や湯呑みがあれば片付け、次の演者の「めへじ」(演者の名前を書いた紙の札)をかえすまでをいいます。

と確かなものとして残っており、男か女かは関係ない、自分を貫くという原動力につながっています。

落語に生かされる  
自分の落語を全力で

NHK新人落語大賞を受賞する前年は、本選に残るも、自分の落語に集中できず、審査員からも厳しい言葉をもらい、何のために落語をやっているのかと悔しい思いをしたそうです。

内気な子ども時代  
表現することへのあこがれ

「子どものころからアホなことを堂々とできる人にあこがれていました」と語る桂二葉さん。

授業でも手をあげて発表しない、学生時代はクラブ活動もしないなど、なるべく人と関わらないよう、かじこまない自分を隠し、ひっそりと生きていたそうです。

落語に出会ったのは、大学生の時。それまでほとんどテレビを見たことがなく、たまたま深夜番組に出演している笑福亭鶴瓶さんを見て、「かわいげがあつてもしろいおっちゃんやな」と好きになったことがきっかけでした。笑福亭鶴瓶さんを生で見たい、そこから落語を初めて見に行くことに。

落語の世界では、人前で堂々とアホなことができる、いろいろな登場人物で自分を表現できる、そこに魅力を感じ、落語の世界へと突き進むことになりました。

苦労した修行  
落語で生きていく

桂二師匠のもとに弟子入りをしましたが、毎日怒られる日々。自分が思い

「とにかくくりきって全力でアホになる」。天狗をつかまえて天狗のすき焼き屋をはじめたいという男がでてくる「天狗刺し」を演じきり、見事大賞を受賞しました。

「落語って本当におもしろいです。自分の気もちをこめられる役を演じ、結果としてお客様に笑ってもらえたら最高です」と語る桂二葉さん。追いつめられるほど燃えるという負けん気で次々に高い壁を乗り越えています。

描く落語にはほど遠い状況でした。

弟子入りは家族になること。師匠の家で修業をしながら、一週間に一度稽古をつけてもらいます。

落語を教えるもらう方法は三遍稽古(さんべんかむこ)といって、師匠が三回話す落語を一言一句聞いたとおりに覚えていく方法です。10分の話に6カ月かかるほど、言葉を感じることに苦労しました。

落語は二百年以上、男性がつくりあげてきた世界。登場人物も男性が多く、女性が声を低くして無理に演じると違和感がでてしまうことも。

お客様が話の世界に入りこみ、笑ってもらうためにはどうしたらいいのかと研究を重ね、自然にしゃべることで、うそがないことを大切に、声の抑揚や座り方、手の位置等を変えることで自分の落語を感覚でつかみながら、つくりあげていきました。

## 繁昌亭大賞

日本で唯一の上方落語の寄席である天満天神繁昌亭を中心に、その年最も活躍した入門25年以下の上方落語協会所属の落語家に贈られる賞。ほかにも奨励賞や新人賞があり、女性初・最速・最年少の受賞は異例。

## Profile

落語家

桂二葉  
かつら によう

Twitter @niyo\_katsura  
HP <https://katsuraniyo.com/>

本名 西井史  
出身地 大阪市  
誕生日 昭和61(1986)年8月2日生まれ  
所属 上方落語協会/株式会社ステッカー  
好きなもの 酒場・くだものについているシール



落語界のバイオニアに  
めざすは身近な落語

「もつとクオリティの高いネタを増やし、見たことがない自分を演じていきたい」と語る桂二葉さん。24歳からはじめた落語が、年齢や経験を重ねることで少しずつ変化する面白さも感じています。

繁昌亭大賞受賞については、「プレッシャーもありますが、寄席って楽しいところだと多くの人に知ってもらい、先輩方が築きあげてくれた繁昌亭をまます盛りあげていきたいです」と話します。

女性落語家は、全体で1割程度。今後は、テレビ出演など東京での仕事も増や

し、落語家としての自分を知らせてもらうことで、自分が笑福亭鶴瓶さんから落語に興味をもったように、女性の落語家も増えていったらいいと考えています。

楽しんでやってほしい  
誰かが助けてくれる

新しい年を迎え、何かに挑戦するたに必要なのをたずねると次のように教えてくれました。

「人生の大先輩が多いので、偉そうなことはいえませんが、何でも楽しんでやってほしいです。挑戦するときは悩ん

だり、迷ったりするときはあると思います。私はそういうときはすぐに周りの人に聞き、助けてもらっています」。

「将来的には、地域の身近な場所です。私たちが作り、いろいろな人が落語を楽しみ、集える場所を作ってほしい」と語る桂二葉さん。

干支のうなぎのような驚異の跳躍力で、飛躍的に活躍されることが期待されるでしょう。

芸 歴

- 平成23(2011)年3月9日 桂米二に入門
- 平成23(2011)年9月6日 梅田太融寺にて「道具屋」で初舞台
- 令和3(2021)年11月23日 若手落語家の登竜門と言われる令和3年度NHK新人落語大賞で審査員全員が満点をつけ大賞受賞  
女性落語家では初
- 令和4(2022)年12月16日 第17回「繁昌亭大賞」受賞  
入門12年目で過去最速

読者プレゼント

アンケートに答えていただいた方から

抽選で1名様に  
直筆サイン色紙プレゼント!

応募  
締切

2月17日(金)



左記の2次元コードからアクセスして応募フォームにそってご回答ください。  
FAX・ハガキでの応募をご希望の方は、府社協HPより応募方法をご確認ください。  
ご応募お待ちしております。

※ 当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。  
※ 応募者の個人情報は、プレゼントの発送のみに使用します。 ※ 重複応募・記入漏れは無効となりますのでご注意ください。